

漁況予報 い わ し

第206号

【2018年3～4月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、1月は0トンで、前年（14トン）および平年^{*1}（78トン）を大きく下回りました。2月は1トン（速報値）で、前年（1トン）並で平年（13トン）を大きく下回りました。

まき網は、佐島地区で2月に入り餌イワシとして漁獲がありました。

魚体は、2ヶ月とも被鱗体長^{*2}（以下同）12-13cmの2017年生まれの1歳魚主体でした（聞き取り）。なお、漁業調査指導船「江の島丸」が2月に三宅島三本漁場でさば資源調査を行った際、昨年につき18-23cmの成熟した大羽マイワシが多く混獲され、今年も産卵のために集群していることがうかがえました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、1月は0トンで、前年（22トン）および平年（129トン）を大きく下回りました。2月は2トン（速報値）で、前年（151トン）および平年（275トン）を大きく下回りました。

鴨居地区及び佐島地区（1ヶ統）のまき網は、餌イワシとして2月に漁獲がありました。魚体は、8-11cmの未成魚～小型成魚主体となりました。

【シラス】

前号でお知らせしたとおり、当所ではしらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、今年もシラスの禁漁期間中（1月1日から3月10日）に、相模湾内で試験操業を実施しました。1月は広い範囲で中層に反応があり、マシラス主体にカタクチシラスが混じる（全長30mm前半）採集がありました。大楠定置前では、表層曳きで新仔の来遊も確認できました。しかし、2月および3月の調査では、水温が13℃台に下がったせい、シラスの反応はほぼ皆無となってしまいました。同じく水温が低かった2014年及び2015年は、3月は殆ど漁がありませんでした。

このことから、漁期入りは4月以降になりそうですが、大蛇行している黒潮の北上流路の位置によっては、4月も引き続き不安定な漁場形成になる可能性があります。

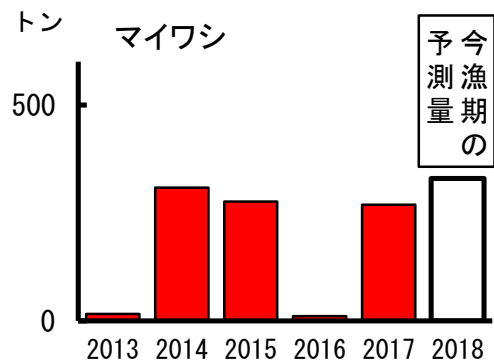
= 予 報 =

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2017年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ（12～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。また、伊豆諸島北部海域に集群している大羽マイワシの来遊にも期待したいところです。

今漁期の漁獲量は、前年をやや上回る約330トンと予測されます。

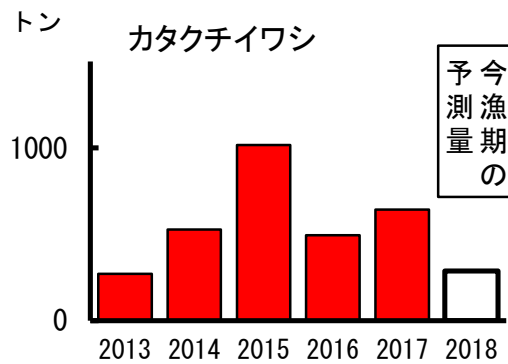


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、引き続き2017年生まれの未成魚～小型成魚（8～11cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を下回る約289トンと予測されます。



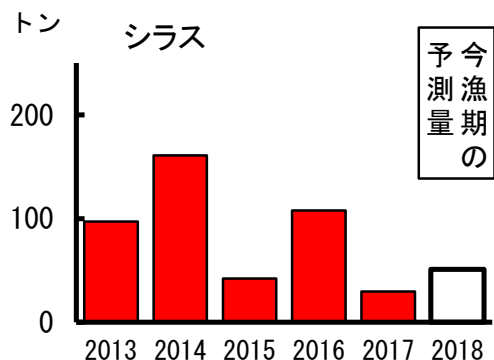
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、2月以降に生まれたマシラスが多い漁模様になると思われ、マシラス主体の漁獲となるでしょう。

一方で、相模湾内の水温は13℃台とシラス来遊には厳しい環境にあります。

今漁期の漁獲量は、親魚との関係から前年を上回る約50トンと予測されますが、大蛇行している黒潮の北上流路が北西向きになった場合は、これを大きく下回るでしょう。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313